

鯖江駅東口等整備について

(1) 鯖江駅東口等整備の背景

令和6年3月に北陸新幹線福井・敦賀間が開業します。これにより、県内JR北陸本線は(株)ハピラインふくに移管され、鯖江駅に停車しているJR特急列車「しらさぎ」、「サンダーバード」は敦賀駅発着となります。

現在、鯖江駅を利用している方々は、北陸新幹線開業後、関西・中京方面へは敦賀駅での乗り換えが必要となり、鯖江市民はもとより、観光・ビジネスなど様々な目的で県外から鯖江を訪れる方々への影響が危惧されています。

また、鯖江駅は通勤・通学など日常生活において多くの市民の方が利用しており、交通結節点としての機能強化と、更なる利便性の向上が求められています。

更には、駅を拠点とした観光・産業の情報発信やおもてなしの交流イベント開催など、駅周辺の活性化とにぎわい空間の創出に向けたまちづくりが求められています。

(2) これまでの経緯と再検討に至った理由

令和2年度から駅周辺の基本構想の検討を開始し、翌3年度には庁内ワーキングによる検討会や、学識者や経済団体、市民代表、交通事業者で構成する基本計画検討委員会を立ち上げ、議論を重ね、令和4年8月に「鯖江駅東口等整備基本計画」を策定し、その後、基本設計等を進めてまいりました。

しかしながら、物価・人件費の高騰の影響に加え、地盤調査により判明した軟弱地盤への対応など様々な要因変化により、事業費が大幅に上振れすることが判明したため、残念ながら、以下の理由により「鯖江駅東口等整備基本計画」を現計画のまま進めていくことは困難であると判断し、再検討させていただくことになりました。

① 事業費

基本設計業務を委託した施設(鉄道施設、自由通路、東西広場)の整備費用は、基本計画策定時の21.3億円余から30.6億円余になり、9.3億円余の増額になることが判明しました。

その他、基本計画時に仕様が未定であったため基本設計業務を委託していない施設(複合施設、既存駅舎)の整備費用も増額になることが予測され、全体事業費としては、更に上振れすることになります。

【主な事由】

- ・物価や人件費等の高騰(4.3億円増)
- ・地盤調査による軟弱地盤の判明に伴う自由通路杭基礎の工法変更(1.9億円増)
- ・その他、未確定要素である自由通路施工委託管理費などの諸経費(3.1億円増)

「R4.8 基本計画策定時点」						「R5.11 基本設計終了時点」					
①概算整備(工事)費用			(単位:億円)			①整備(工事)費用			(単位:億円)		
区分	事業費	備考	財源内訳			区分	事業費	備考	財源内訳		
			国補助金	県補助金	市負担金				国補助金	県補助金	市負担金
基本設計実施事業費	21.3					基本設計実施事業費	30.6	基本計画時より9.3億円上振れ			
内訳	鉄道施設	2.9	ホーム階段2箇所、EV連絡通路ほか	※1	※2	内訳	鉄道施設	5.7	ホーム階段2箇所、EV連絡通路ほか	※1	※2
	自由通路	14.6	跨線橋W=3.0m				自由通路	20.5	跨線橋W=3.0m		
	東西広場	3.8	東口交通広場、西口交通広場				東西広場	4.4	東口交通広場、西口交通広場		
			11.4	2.0	13.0				12.8	2.0	20.9
複合施設	2.7	2階建て(延床面積560m ²)				複合施設	※3	2.7	2階建て(延床面積560m ²)		
既存駅舎	1.2	既存駅舎改修(南側駐車場含む)				既存駅舎	※3	1.2	既存駅舎改修(南側駐車場含む)		
設計費	1.2	実施設計費				設計費	※3	1.2	実施設計費		
全体事業費	26.4					全体事業費	35.7				
※1 鉄道施設総合安全対策事業(1.4)、都市構造再編集中支援事業(10.0)						※1 鉄道施設総合安全対策事業(0)、都市構造再編集中支援事業(12.8)					
※2 駅まち魅力づくり支援事業(2.0)						※2 駅まち魅力づくり支援事業(2.0)					
						※3 基本設計未実施のため基本計画時の事業費を計上					

② 鉄道施設総合安全対策事業のB/C（費用便益比）

現計画では、鉄道事業における補助採択の基準となるB/C（費用便益比）については、事業費（経費）に対し、便益（効果）が得られない。これにより、鉄道補助の採択が受けられず、市負担が更に増加します。

(3) 再検討にあたり

東口からの利便性向上を重視した現計画では、鉄道施設、自由通路整備費用が莫大となるため、事業手法、必要性などを再検討する必要がある。今後、鯖江駅や鯖江駅周辺駐車場、越前たけふ駅などの利用状況の調査や必要に応じ各種データの収集を行うとともに、再度、周辺住民や鉄道利用者など市民の皆様の意見や要望をお聞きする機会を設けます。

調査やデータ収集、意見、要望をとりまとめた後、東口改札や東西広場、道路整備など駅周辺全体の基本計画の再検討の着手を、今後3年を目途に目指します。

また、既存駅舎の利用・活用については、入居、運営していただける団体等との調整を現在行っており、ハピラインふくい移管後にできることを着手するとともに、利用状況等を見極めながら利活用策を再検討していきます。

(4) ハピラインふくい移管後の取組方針

【既存駅舎】

1. 3/16 移管後のおもてなし(観光案内等)体制の検討
 - ① 現在営業しているコンビニエンスストアの跡地利用
 - ② 号車看板撤去後のめがねのまちマーク設置
 - ③ 北側跨線橋の装飾変更
 - ④ めがねベンチ設置 など
2. 開業後の状況を確認しながら、駅舎の利活用方法を検討
 - ① 必要に応じ内装工事、外装工事の実施

【利用状況調査】

- ① 通勤・通学者の利便性向上、利用者増加につながる調査
- ② 方面別(東京、関西、中京方面等)の移動実態調査
- ③ 観光客、サンドームイベント時等の人流調査
- ④ 鯖江駅周辺駐車場、越前たけふ駅駐車場の利用状況調査 など

【にぎわい創出】

- ① 鯖江駅周辺(西山公園～鯖江駅～めがねミュージアム)でのイベント等の開催
- ② 鯖江駅前ビル、中心市街地空き店舗等を活用した賑わいづくり
- ③ 2025年の市制70周年、眼鏡産業生誕120周年の記念事業の発信と市内外からの集客 など

【意見交換会】

- ① 市民、各種団体等との意見交換会開催 など



【計画再検討】

2年間の調査等を踏まえたうえで、鯖江駅東口等整備計画の再検討に着手